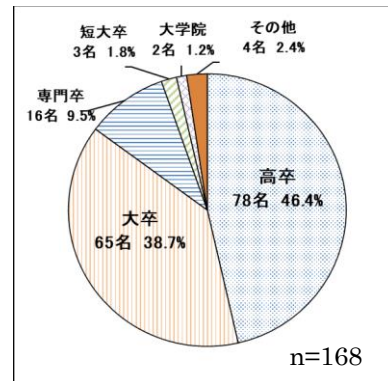


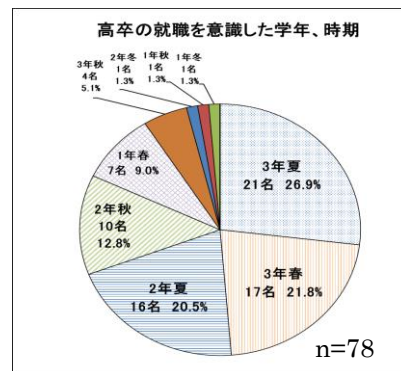
当協会が主催する「新入社員合同研修」の参加者を対象に、2012 年より「新入社員意識調査」を実施している。今回は参加者 169 名（48 社より男性 128 名、女性 41 名）のうち全員から回答を得た。（調査日：2024 年 4 月 4 日）
※2023 年度を比較対象とした。

今回の参加者の構成は、「高卒」78 名(46.4%)がもっとも多く、次いで「大卒」65 名(38.7%)、「専門卒」16 名(9.5%)、「短大卒」3 名(1.8%)、「大学院」2 名、その他(中途)4 名であった。

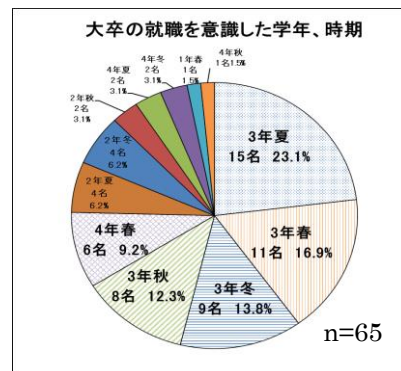


問 1. あなたはいつから就職を意識していましたか。該当する学年・時期を教えてください。

「高卒」では、「3 年夏」がもっとも多く、21 名(26.9%)、次いで「3 年春」が 17 名(21.8%)、「2 年夏」が 16 名(20.5%)であった。



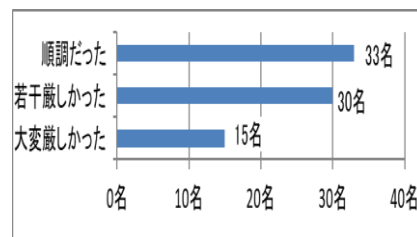
「大卒」では「3 年夏」がもっとも多く、15 名(23.1%)、次いで「3 年春」が 11 名(16.9%)、「3 年冬」が 9 名(13.8%)であった。



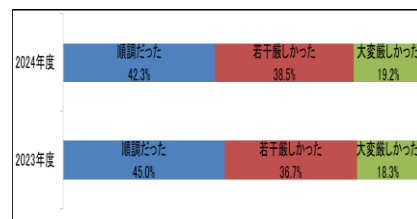
「専門卒」では「1 年夏」が 6 名、次いで「1 年春」「1 年冬」「2 年春」が各々 2 名ずつ。「短大卒」では「1 年冬」2 名であった。「大学院」では、「1 年夏」「3 年春」が各々 1 名ずつであった。

問 2. 就職活動を振り返って（高卒）

「若干厳しかった」30 名(38.5%)と「大変厳しかった」15 名(19.2%)であった。2023 年度と比較すると「若干厳しかった」割合が増加し「順調だった」の割合が若干減少した。

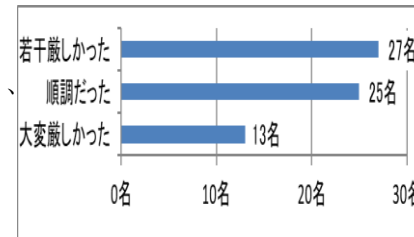


※参考：2023 年度「順調だった」45.0%
「若干厳しかった」36.7%
「大変厳しかった」18.3%

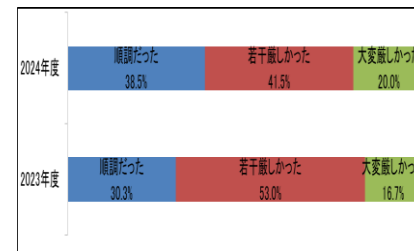


問 2. 就職活動を振り返って（大卒）

「若干厳しかった」27 名(41.5%)と最も多く、「順調だった」25 名(38.5%)であった。2023 年度と比較すると「順調だった」割合が増加し「若干厳しかった」の割合が若干減少した。



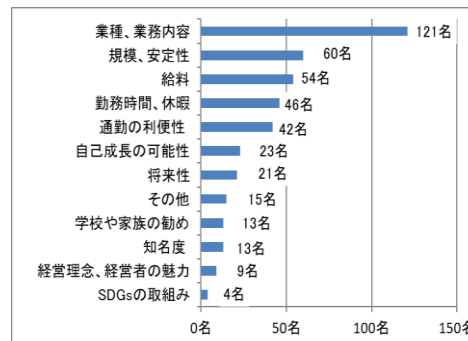
※参考：2023 年度「順調だった」30.3%
「若干厳しかった」53.0%
「大変厳しかった」16.7%



「大学院」では「順調だった」が 2 名の回答であった。「専門卒」では、「若干厳しかった」が最も多く 10 名の回答があり、「大変厳しかった」が 5 名、「順調だった」が 1 名であった。「短大卒」では「若干厳しかった」が 2 名、「大変厳しかった」が 1 名の回答であった。

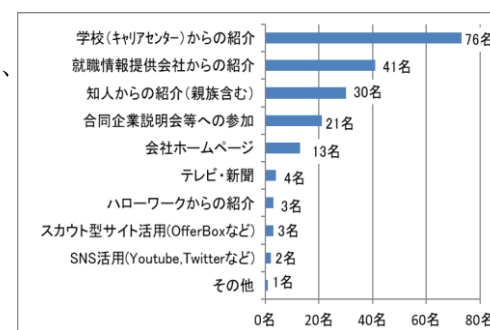
問 3. 就職先を選ぶ際に重視した点は？（3 つまで選択可）

「業種、業務内容」が 121 名と最も多く 12 年連続のトップ。以下やや差があつて「規模、安定性」60 名、「給与」54 名等が続いている。



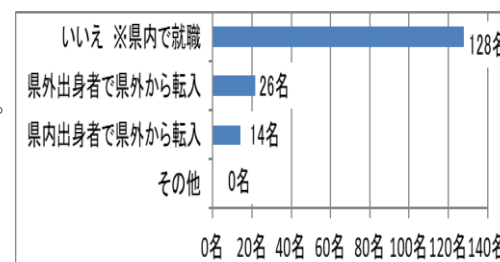
問 4. 就職先の求人情報をどのツールで知ったか

「学校からの紹介」が 76 名と最も多く、以下「就職情報提供会社からの紹介」41 名、「知人からの紹介（親族含む）」30 名と続く。ハローワークの利用が少ない結果となった。



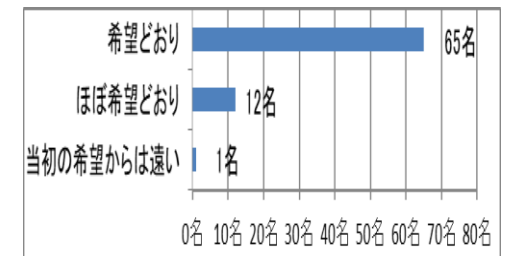
問 5. 就職にあたり、県外から転入してきたか

「いいえ ※県内で就職」が 128 名と最も多く、U・I ターンは少ないことが伺える。

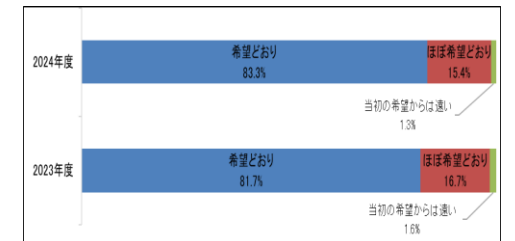


問 6. 就職した企業は？（高卒）

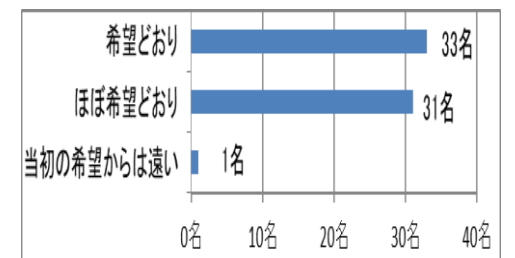
「希望どおり」が 65 名(83.3%)、「ほぼ希望どおり」が 12 名(15.4%)の回答であった。両者を合わせると 77 名(98.7%)である。また、1 名(1.3%)が「当初の希望からは遠い」と回答し、こちらは低い割合であった。



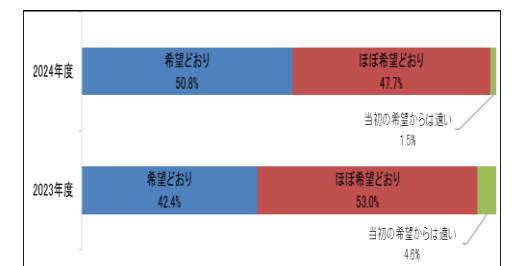
※参考：2023 年度
「希望どおり」81.7%
「ほぼ希望どおり」16.7%
「当初の希望からは遠い」1.6%



（大卒）
「希望どおり」が 33 名(50.8%)、「ほぼ希望どおり」が 31 名(47.7%)の回答であった。両者を合わせると 64 名(98.5%)である。また、1 名(1.5%)が「当初の希望からは遠い」と回答があり低い割合であった。



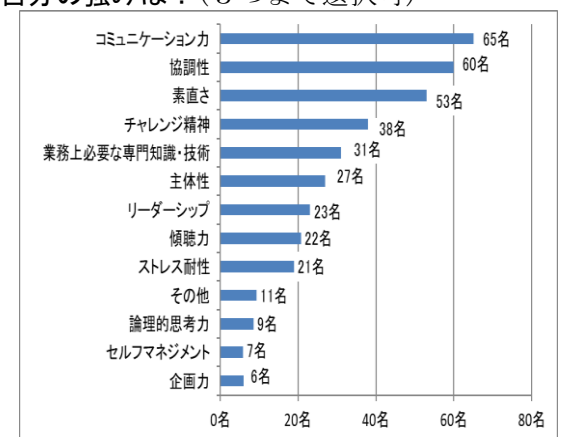
※参考：2023 年度
「希望どおり」42.4%
「ほぼ希望どおり」53.0%
「当初の希望からは遠い」4.6%



「大学院」では「ほぼ希望どおり」「希望どおり」各々 1 名ずつの回答であった。「専門卒」でも「希望どおり」6 名、「ほぼ希望どおり」9 名の回答であった。「短大卒」でも「希望どおり」2 名、「ほぼ希望どおり」1 名の回答で「当初の希望からは遠い」の回答はなかった。

問 7. 就職活動でアピールした自分の強みは？（3 つまで選択可）

「コミュニケーション力」65 名が最も多く、次に「協調性」60 名「素直さ」53 名などが続いている。

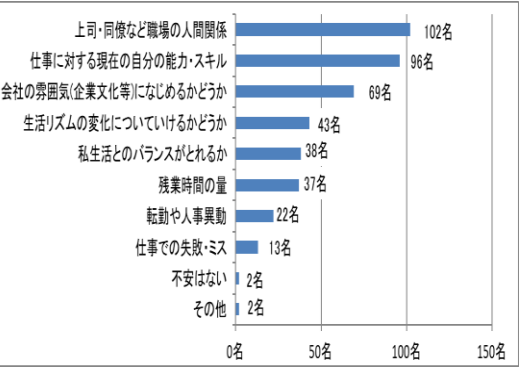


（裏面へ続く）

(表面の続き)

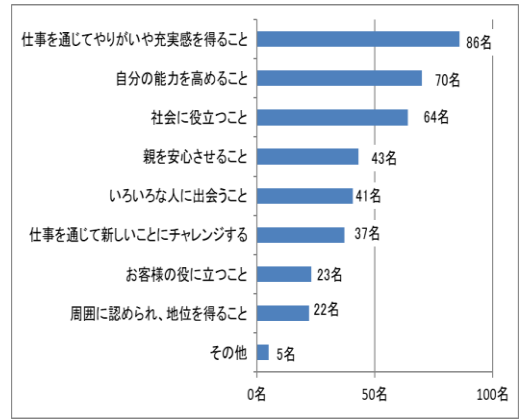
問 8. 社会人生活に対する不安(3 つまで選択可)

「上司・同僚など職場の人間関係」102 名、「仕事に対する自分の能力・スキル」96 名と続いている。「不安はない」は 2 名だけであった。



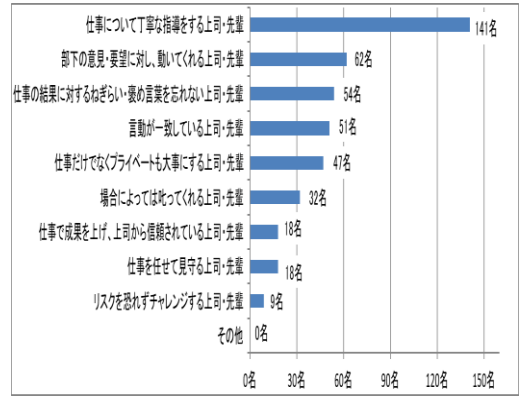
問 9. あなた自身の働く目的は？生活費を得ること以外で(3 つまで選択可)

「仕事を通じてやりがいや充実感を得ること」が 86 名、次いで「自分の能力を高めること」70 名、「社会に役立つこと」64 名、「親を安心させること」43 名、「いろいろな人に出会うこと」「いろいろな人に出会うこと」などが続いている。逆に「お客様の役に立つこと」「周囲に認められ、地位を得ること」は低い割合であった。



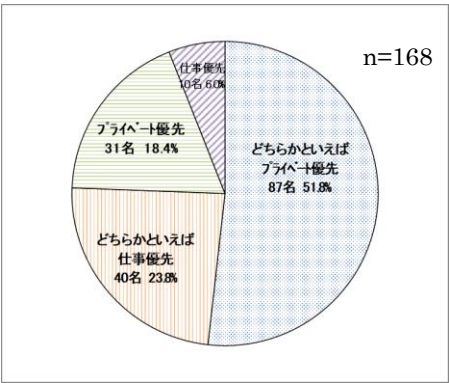
問 1 0. あなたが理想だと思うのはどのような上司や先輩ですか？(3 つまで選択可)

「丁寧な指導をする上司・先輩」141 名、次いで「部下の意見・要望に対し、動いてくれる上司・先輩」62 名、「ねぎらい・褒め言葉を忘れない上司・先輩」54 名と続いている。



問 1 1. 仕事とプライベートについて

「どちらかといえばプライベート優先」が 87 名(51.8%)と圧倒的に多く、次いで「どちらかといえば仕事優先」40 名(23.8%)、「プライベート優先」31 名(18.4%)と続いている。合計すると 70.3%の新入社員がプライベートを優先したいと考えている。「仕事優先」と回答したのは 10 名(6.0%)であった。



※参考：2023 年度「どちらかといえばプライベート優先」 55.7%

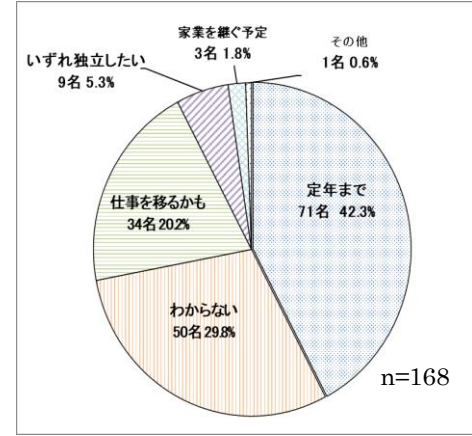
「どちらかといえば仕事優先」 22.1%

「プライベート優先」 17.5%

「仕事優先」 4.7%

問 1 2. 今の就職先でいつまで働こうと思いますか？

「定年まで」が 71 名(42.3%)で最も多かった。一方、「わからない」50 名(29.8%)、「仕事に移るかも」34 名(20.2%)と続いている。「仕事に移るかも」、「いずれ独立したい」を合計すると 43 名(25.5%)が今の就職先を「いずれ離れる」としている。



※参考：2023 年度

「定年まで」 51.7%

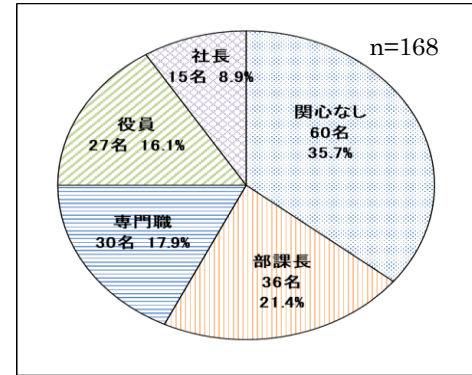
「仕事に移るかも」 18.8%

「いずれ独立したい」 1.3%

「家業を継ぐ予定」 0.7%

問 1 3. 自身の昇進について、どこまで目指しますか？

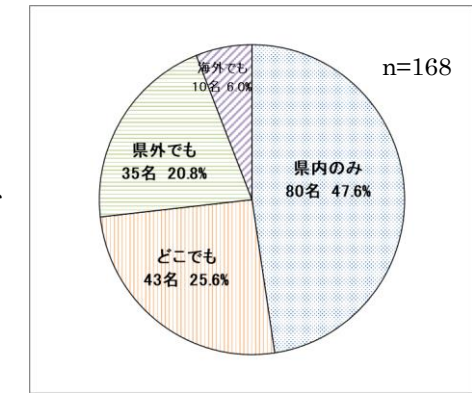
「昇進にあまり関心がない」が 60 名(35.7%)で最も多く、以下「部課長」36 名(21.4%)、「専門職」30 名(17.9%)「役員」27 名(16.1%)と続いている。



※参考：2023 年度「関心なし」 40.3%

問 1 4. 働く場所について自分の考えに最も近いのは？

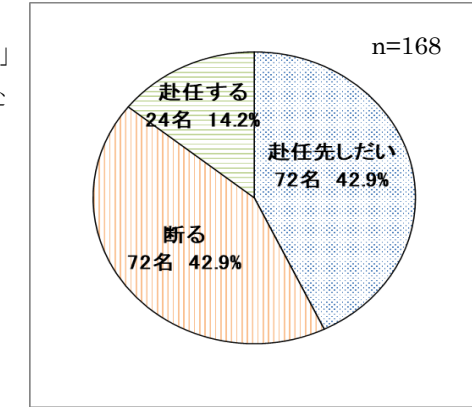
「富山県内でずっと働きたい」が 80 名(47.6%)で最も多く、「働く場所にはこだわらない」43 名(25.6%)、「富山県だけでなく県外でも仕事をしてみたい」35 名(20.8%)と続く。「機会があれば海外でも」は 10 名(6.0%)であった。



※参考：2023 年度「県内のみ」 55.7%

問 1 5. 将来、あなたに海外転勤の打診があったら？

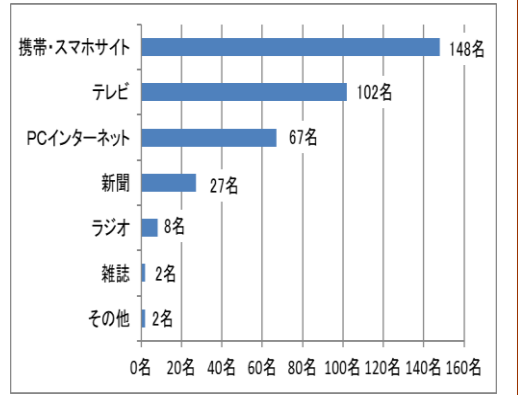
「国・地域しだいで検討する」と「断る」が各々 72 名(42.9%)、「国・地域を問わず赴任する」は 24 名(14.2%)であった。



※参考：2023 年度「断る」 36.9%

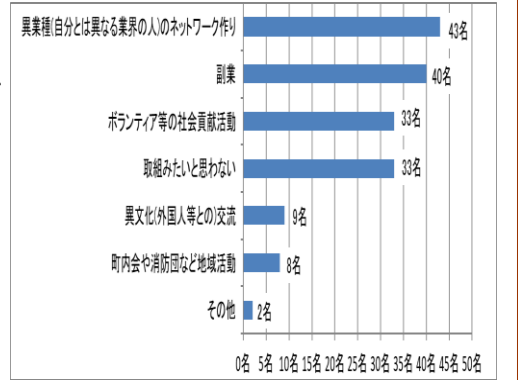
問 1 6. 日常的な情報収集メディアは？(3 つまで選択可)

「携帯・スマホサイト」が 148 名(41.6%)で、9 年連続のトップ。2012 年調査時は 4 位であったが、飛躍的に伸びている。次いで、「テレビ」102 名(28.7%)、「PC インターネット」67 名(18.8%)が続いている。紙による情報収集の比率が減少傾向にある。



問 1 7. 社外活動の関わりについて取り組んでみたいと思うものは？(1 つだけ選択可)

「異業種のネットワーク作り」が 43 名、次いで「副業」40 名と続いている。一方、「取り組みたいと思わない」は 33 名であった。



<まとめ>

- ・今年度の新入社員の就活の状況は問 2 および問 6 より、就職活動が若干厳しかったものの、ほとんどの人が希望した企業へ就職できていることがわかった。問 1 1 の「仕事を優先」する意識は昨年より 1.3%高くなったが、依然としてプライベート優先比率が上回っている。
- ・求人情報のツールは問 4 より、通っている学校(キャリアセンター)からの紹介が多いこと、問 5 より県内での就職が多いことがわかった。
- ・問 8 の「社会人生活の不安」を聞いたところ、問 9 より意欲はあるが、自分の能力・スキルや職場の人間関係、会社になじめるかを不安に思っている。
- ・問 1 7 より既に副業を考えている新入社員が多いことがわかった。
- ・以上より、希望する企業への就職が叶った傾向が強く、新入社員の仕事に対する期待値は高い状況にあると考えられる。一方で、依然として企業では人手不足が続く中、早期離職を防ぐ観点から、入社後から自信をもって働けるようにしっかりとサポートしていくことや風通しの良い職場環境の構築など人材の育つ魅力的な組織づくりが必要不可欠といえる。

以 上